

科目名	看護を展開する思考技術 (看護過程・臨床判断)	対象学年・時期	1 年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1 単位・30 時間
授業概要	<p>超高齢社会を迎えたわが国では、医療や介護が必要な高齢者が急増する一方、出生数は低下しており、また生産年齢人口は著しく減少している。この変化に対応するため地域医療構想の実現、地域包括ケアシステムの構築が推進されている。</p> <p>このような中、看護が展開される場合は病院から地域へと拡大しており、看護の対象も、健康状態や発達段階にかかわらず地域で暮らす人々とその家族まで広がっている。病院では患者の状態に関する判断は医師をはじめ各専門職が行うが、地域では常に医師や専門職がいるとは限らない。そのため、看護師には対象の変化や反応を直観的に捉え、即時的に対応していくための臨床判断が不可欠となる。</p> <p>同時に、絶え間ない時間の中で暮らしを営む1人の生活者として対象を理解し看護を実践するにあたっては、定型的なツールで情報を収集し、情報同士の関連から科学的根拠に基づきアセスメントを行い対象の看護問題を明らかにする看護過程（論理的で熟慮型）の思考技術も必要である。</p> <p>そこで、ここでは「看護過程」と「臨床判断」の看護実践における重要性と意義、それぞれの思考過程を学ぶ。</p>		
授業形態	講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程と臨床判断の思考が理解できる。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいたアセスメントをすることができる。</li> <li>3. 対象の変化や反応に気づき、解釈できる。</li> <li>4. 領域に特徴的なアセスメントの視点がわかる。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を展開する思考技術の導入 臨床判断とは     リフレクションとは</li> <li>2. リフレクションの演習の解説 問題解決思考・クリティカルシンキング・ロジカルシンキングとは</li> <li>3. 問題解決思考の演習の解説 看護過程とは</li> <li>4. 【看護過程】 ゴードンの機能的健康パターン</li> <li>5. 【老年】 高齢者のアセスメントの視点 高齢者総合機能評価</li> <li>6. 【地域・在宅】 ICF の概念、アセスメントの枠組み</li> <li>7. 【精神】 プロセスレコード 【看護過程】 「活動・運動」のアセスメント解説</li> </ol>	<p>事前学修：リフレクションのワークプリント</p> <p>事前学修：問題解決思考のワークプリント</p> <p>事前学修：肺炎の病態生理</p> <p>事前学修：教科書（CGA について）を読んでください。</p> <p>事前学修：「活動・運動」のアセスメント</p>	

	<p>8. 【小児】 子どもをアセスメントする視点</p> <p>9. 臨床判断 シミュレーション演習</p> <p>10. 臨床判断演習の解説 【看護過程】 関連図とは</p> <p>11. 【看護過程】 「栄養・代謝」「排泄」のアセスメント 解説 【精神】 アセスメントの視点</p> <p>12. 【看護過程】 病態関連図の解説 全体関連図の説明</p> <p>13. 【精神】 プロセスレコードの演習</p> <p>14. 【母性】 母子をアセスメントする視点</p> <p>15. 【看護過程】 全体関連図・看護診断の解説</p>	<p>事後学修：レポート作成</p> <p>事前学修：臨床判断ワークシート</p> <p>事前学修：「栄養・代謝」「排泄」のアセスメント</p> <p>事前学修：病態関連図の作成</p> <p>事前学修：プロセスレコードの記載 事後学修：プロセスレコードの振り返り (詳細は講義で説明します。)</p> <p>事後学修：産後女性の人間の反応と援助についてワークプリント</p> <p>事前学修：全体関連図、看護診断</p>
使用テキスト	<p>看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第1版 医療情報科学研究所編 メディックメディア</p> <p>系統看護学講座専門分野 基礎看護学2 「基礎看護技術I」第19版 茂野香おる著 医学書院</p> <p>看護過程に沿った対症看護病態生理と看護のポイント 第5版 高木永子監修 Gakken</p> <p>NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026 原書第13版 医学書院</p>	
事前・事後学修	<p>内容については「授業計画」を参照してください。</p> <p>指定日まで各教員に提出してください</p>	
評価基準および評価方法	<p>提出物によって評価する。</p> <p>臨床判断・看護過程・・・50%</p> <p>精神、地域・在宅、老年、小児、母性・・・各10%ずつ</p>	
備考	<p>課題として取り組むものが多くあります。</p> <p>講義で学んだことを生かし、自身で積極的に課題に取り組み、その後の各領域の授業や実習に生かせる思考を身につけましょう。</p>	

字体はMS明朝

字の大きさは10.5ポイント

列の設定・余白は変えないでください